



■ビオトープ・サロン 生物多様性保全と人材育成

ビオトープ管理士資格試験は、環境保全の基礎知識です。人材教育のひとつとしてご活用ください。（編集部）

【ビオトープ管理士受験申込み締め切り迫る！】

平成25年度ビオトープ管理士資格試験の受験申込みの締め切りが迫りました。2級は2006年頃から合格率が上昇傾向でしたが、試験形式が変更になって受験しやすくなり、2010年10月には公式テキストが発行され、1級、2級ともに、ここ2年は従前の概ね2倍と急上昇しています。ダメだとあきらめた方も、リベンジのチャンスです。この機会に是非、チャレンジしていただきたく、以下に「受験要領」と「関連情報」をご紹介します。

1. 受験要領

■受験申込み締め切り 8月9日（金） ■試験日 9月29日（日） ■試験会場 徳島大学工学部（2級のみ）
 ※受験の手引は、公益財団法人日本生態系協会のホームページからダウンロードできます。

<http://www.ecosys.or.jp/activity/biokan/index.htm>

※今年度からビオトープ・セミナーで配布されていた非売品の過去問題集が販売されることになりました。この注文紙も、同ホームページからダウンロードできます。

2. 関連情報（日本ビオトープ管理士会ニュースレターより転載）

1) 平成24年度の試験結果より

(1) 合格率

■1級で約20%、2級で約50% ■過去最年少合格者が誕生（中学3年生：受験当時14歳）

(2) 択一問題から読み取れたこと

正解率の低かった問題のテーマは、2級の場合で、①生物多様性戦略、②森林計画制度の体系、③猛禽類の生息環境と保全措置について、④自然観察会と危険生物、⑤外来種の防除方法（アレチウリ）、⑥農業水路の改修に際しての留意事項、⑦池タイプのビオトープの復元・創出における考慮事項等でした。

全体的に見ると、不合格者の殆どの方が「環境関連法」に弱いようです。また、フィールドでの体験に左右される生きものに関する問題で正解率が低い傾向にあり、特に、外来種、猛禽類（高次消費者）についての知識や認識が低い印象が受けられました。

(3) 対策として

まずは野外へ！そして生きものへの意識を持つ。やはり、一番基本となることは、現場での経験です。それは、ビオトープ管理士資格試験では全般的に、机の上の勉強だけではなく、フィールドでの経験の有無が回答に反映されるよう意図されているためです。

座学はもちろん大事なことではありますが、同時に、ビオトープの整備や環境管理作業、自然観察会などへの継続的な参加や、業務、研究を通じて、現場での経験を積むことも大切にいただければと思います。

2) 関連法の成立・改正など

(1) 生物多様性国家戦略2012-2020の間議決定

2012年9月26日、生物多様性基本法に基づき間議決定されました。長期目標、短期目標、5つの基本戦略など、自然共生社会におけるランドデザインや、愛知目標の達成に向けたロードマップの理解に努めましょう。

(2) 改正「環境影響評価法」が2013年4月より施行

1999年に施行された環境影響評価法は、10年を経て見直しが行われ、2011年4月に「環境影響評価法の一部を改正する法律」が成立しました。そして、今回新たに2つの改正事項を追加し、2013年4月1日より完全施行されました。「計画段階配慮事項の手続きの新設」と「環境保全措置等の結果の報告・公表」とともに、「改正後のフロー」について理解に努めましょう。

(3) 「環境教育等による環境保全の取組の促進に関する法律」が完全施行

2012年10月1日、「環境教育等による環境保全の取組の促進に関する法律（環境教育促進法）」が完全施行されました。これにあたり、2012年6月26日に間議決定された「環境保全活動、環境保全の意欲の増進及び環境教育並びに協働取組の推進に関する基本的な方針」では、学校における環境教育について「ビオトープや学校林等学校が有する施設の活用」や「地域在来の植物に配慮した緑化やビオトープづくり等を通じて学校の屋外教育環境を整備充実」などが明文化されました。

(4) ラムサール条約新規登録湿地

2012年7月6～13日にルーマニアで開催されたラムサール条約第11回締結国会議において、日本の湿地が新たに9つ登録されました。今回の会議で、日本の条約湿地数は46か所、条約湿地面積は137,968haとなりました。新たな9つの湿地の理解に努めましょう。

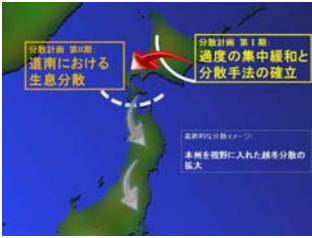
■ビオトープ・サロン マスメディアからの話題 ～タンチョウと列車の衝突事故と分散化計画～

日本経済新聞 6月10日電子版からの話題です。(編集部)

【野生生物の保護増殖と野生復帰の課題】

特別天然記念物のタンチョウと列車の衝突事故が後を絶たない根室線の特定区間で、6月から試験的に減速運転を始めると発表したとの記事が目にとまり、関連情報を検索したところ、NNNドキュメント'13はじめ、環境省の分散計画など、様々な情報がヒットしました。

NNNドキュメント'13の6月9日放送では、「去年夏、釧路市動物園にタンチョウのヒナが2羽保護された。名前はルルとラン。親鳥が列車にひかれ命を落としたためだ。いま北海道東部では、国の特別天然記念物・タンチョウが、生息地である釧路湿原やその周辺で、列車と衝突死する事故が増え始めている。大きな原因は「生息地の過密化」で、背景にはエサの乏しい冬場の給餌によって、個体数を増加させてきたという経緯がある。給餌は絶滅寸前からの回復につながった一方で、タンチョウに「渡り」という本来の姿を忘れさせた。その結果、タンチョウは生息地にとどまって数を増やし、家畜などのエサを狙う姿も相次いで目撃されている。しかし、給餌を事業化した国は、長年「生息地の過密化」という問題を認識しながら、対策を放置し続けていた。」と紹介されていました。



環境省では、「タンチョウ生息地分散行動計画(左写真転載)」が平成25年4月に北海道地方環境事務所・釧路自然環境事務所から公表されています。鹿兒島県出水市のナベヅル分散化も課題になっていますが、コウノトリやトキをはじめとする保護増殖や野生復帰の取組が無用となる社会を実現したいですね。

ビオトープ・サロン お便りコーナー

エネルギーもウナギも、なにもかも、過剰消費ということなのでしょう。持続可能社会は生態系が回復できる範囲内で人類が生活する社会のはずですが、実現は難しそうです。でも、きっと気づくはず、その時は手遅れかもしれませんが、一人ひとりがしっかりと理解し、考え、行動することなのでしょう。(編集部)

【Iさん：2013/07/05】

ニュース055、拝見しました。再生可能エネルギー、温暖化対策が目的で、避けられないのならば、どこに建設するか優先順位を考えての「すみわけ」が必要という意見に賛成です。昨年仕事で関係しましたが、優良農地でのソーラー設置は、禁止指導されました。本号ではこれが変わっていく可能性を感じました。

ところで、少し前にニホンウナギのニュースがありました。それでも量販店や牛丼チェーンで食べられる激安な鰻丼。近所で毎年見られる、沢山のシラスウナギ漁の船。稚魚が出てくる海域はひとつでしょうから、何かカラクリがありそうと感じた次第です。(編集部より：ニホンウナギを国際絶滅危惧種に指定するよう検討されているそうです。日本全国でニホンウナギの親ウナギの漁獲量が過去30年間で約9割も減少したことなどがあげられています。)

■ビオトープ・セミナー 資格試験に挑戦して基礎知識を修得しよう!

ビオトープ管理士資格試験過去問題 出展：(財)日本生態系協会主催「ビオトープ管理士セミナー」のテキストより
無断転載禁止：本紙は公益財団法人日本生態系協会の許可を得て転載しています。(編集部)

【生態学：正答と解説は次号で紹介】

問056：森林の伐採後や火災後の植生の回復について述べた次の文のうち、誤っているものはどれですか。

1. まず草本植物が入り、次いで、低木類が入る。その後、高木性の樹種が徐々に入る。
2. 地表付近の光環境の変化が、植生の移り変わりに大きな影響を及ぼす。
3. このような場所での植生の変化を、二次遷移という。
4. 周辺から風や鳥によって運ばれてきた種子だけが、植生の回復を支える。
5. このような場所での植生の回復は、火山が噴火した後にできる裸地に比べて速い。

■前号055の解説

1) 準備段階：①設計図書及び特記仕様書の理解と疑問や課題抽出、②発注者や設計者との細部協議による①の解決、③外来生物の駆除対策や利用する現地資源及び搬出や搬出資材への配慮、④保全対象種の有無確認や保全の具体的な方法、⑤工程や工事方法に対する配慮、⑥施工体制にビオトープの専門家を加える姿勢、⑦施工中に新たな発見があった場合の対処方法、⑧土壌条件や地下水位を確認する試掘。2) 仮設工事段階：①工事用道路による影響緩和への配慮、②保全対象種がいる場合の代替環境の準備、③外来生物の処理・処分、3) 本工事：①湿地としての養生管理、②湿地植物相の誘導に関する事項、③外来生物の埋土種子を含んだ表土の取り扱い、④草原土壌に適した客土の購入。これらの理解と準備段階や仮設工事段階の重要性の認識が求められます。

※2級はどなたでも受験でき、四国の受験会場は「徳島大学工学部」です。自然環境の保全に関わる方には、是非とも取得していただきたい資格です。詳しくは、<http://www.ecosys.or.jp/> (公益財団法人 日本生態系協会HP)

■編集後記

ビオトープに関するお役立ち情報のもとより、皆様の活動やお仕事、日常生活を通じて見たり感じたりしたこと、身近な自然の春夏秋冬や喜怒哀楽のご寄稿をお待ちしております。ふるってご参加ください! (編集部)
 【E-mail : kanv@nifty.com URL : <http://biotopetokushima.yu-yake.com>】